

一般社団法人日本地震工学会 拡大正副会長会議 議事録

日時：2012年4月5日（木）17:00～22:00

場所：建築会館 305号会議室

出席者：川島会長、運上副会長、若松副会長、芳村副会長

大谷理事、澤本理事、東理事、矢部理事

オブザーバー：嶋原事務局長

提出資料

拡大副会議員資料1 平成23年度事業報告（案）

拡大副会議員資料2 平成23年度収支決算書（案）

賃借対照表（税込）

平成23年度決算報告（案）

拡大副会議員資料3 平成24年度日本地震工学会活動計画案一覧

平成24年度アクションプログラム案一覧

各委員会平成24年度予算原案・活動計画案・アクションプラン

拡大副会議員資料4 平成24年度収支予算書（案）

拡大副会議員資料5 功績賞・功労賞の候補者（案）について

拡大副会議員資料6 平成23年度日本地震工学会・論文賞の候補者について

拡大副会議員資料7 日本地震工学会大会規定（案）

拡大副会議員資料8 一般社団法人日本地震工学会 第2回社員総会ならびに講演会のお知らせ

拡大副会議員資料9 16WCEE 日本招致に関する意見

議 事

1. 平成23年度事業報告（案）

澤本理事から資料拡大副会議員資料1を用いて、平成23年度事業報告（案）の説明が行われた。

平成23年度事業報告に次の4点を追加することになった。

- 1)公益法人化移行への検討を開始したこと
- 2)日本地震工学会大会の実行委員会を常置委員会としたこと
- 3)東日本大震災関連の活動に、論文集の特集号を企画して、約80編の投稿があったこと
- 4)論文賞の選考を行ったこと

理事会の活動等、幾つかの表現に関して修正することになった。

2. 平成 23 年度収支決算（案）

東理事から資料拡正副会議-資料 2 を用いて、平成 23 年度の収支決算（案）の説明が行われた。

説明用資料も、第 3 回社員総会の資料とすることになった。

川島会長より、実施された各イベントの収支決算も示して欲しいという依頼があった。

3. 平成 24 年度事業計画（案）

矢部理事から資料拡正副会議-資料 3 を用いて、平成 24 年度の実業計画（案）の説明が行われた。

次の委員会に関しても平成 24 年度の活動計画を作成しその活動計画が目に見えるようにすることになった。

- 1) 3 学会地震被害調査連絡会
- 2) 功績賞選考委員会
- 3) 論文賞選考委員会

功労賞，論文奨励賞，優秀論文発表賞の選考に関しても，担当委員会の活動計画として明記することになった。

公益社団法人化の準備のための体制案を総務担当理事が作成することになった。

16WCEE 日本招致の検討は、国際委員会の活動計画に入れることになった。

社員総会前の理事会が 3 月と 5 月にそれぞれ 1 回では、社員総会前の準備として不十分であるため、平成 25 年からは 4 月にも理事会の開催を予定することになった。

平成 24 年度の活動計画に関連し、総務担当理事より、次の点を各担当理事に連絡することになった。

事業企画委員会

委員旅費を多く必要としていることから、どの委員がどのイベントにどのような役割を果たしたかを整理すると同時に、旅費の支出を減らす工夫を理事会に報告する。

電子広報委員会

電子広報委員会は、サーバーのお守りや各委員会から送られてきた情報をコンパイルするのではなく、会員にとって有益な情報を自ら積極的に集めにいき、会員に新鮮な情報を発信する情報クリエイター、メッセージャーの役割を果たす必要がある。また、JAEE ニュースも何をヘッドラインで会員に伝えるべきかという視点で、編集委員会メンバーや該当号の責任編集者の名前を表に出し、会員からみて関心と呼ぶ紙面作りを目指す等、活動の抜本的な変化を取り入れて活動方針を強化する。さらに、委員会の名称も、情報のクリエイター、メッセージャーであることがイメージできるものに変更する。JAEE ニュースの発行回数を現在の月 2 回から 1 回あるいは 2 月に 1 回と減らしてもよいから、質の向上を目指す。後任の人選も、このような活動ができる人材を捜す。

4. 平成 24 年度収支予算（案）

大谷理事から資料拡正副会議-資料 4 を用いて、平成 24 年度の収支予算（案）の説明が行われた。

事業企画委員会は毎年決まっている実質的な主催者がいる企画を実施するだけでなく、日本地震工学会主催の企画を充実させる必要がある。会議費支出を予算原案の半分程度に圧縮し、圧縮分は震災対策技術展等に出展する地震工学関連の模型（たとえば、免震模型や液状化模型等）や日本地震工学会の最新の活動情報を伝えるパネル製作に充当する。なお、地震工学に関連した模型等の製作について、法人会員等の名前を出した上で協力を得て実現できないかを検討する。

5. 功績賞・功労賞の選考について

澤本理事から資料拡正副会議-資料 5 を用いて、功績賞と功労賞の候補者（案）が報告された。

功績賞は、4 者が受賞者案として選定された。なお、強震記録の提供者として資料 5 から漏れた 1 者を追加するとともに、個人 1 名を追加することになった。

功労賞は、3 名が受賞者案として選定された。

川島会長より、名誉会員の推挙について検討するように依頼があった。

6. 論文賞の選考状況について

若松副会長から資料拡正副会議-資料 6 を用いて、平成 23 年度日本地震工学会論文賞候補の選定に関する経過報告が行われた。

論文賞の受賞者にも、社員総会において受賞記念講演を行うことになった。そのためには、受賞者に早く告知する必要がある、次回 5 月の理事会後では間に合わない、論文賞の受賞者の承認をメール審議により実施することになった。

7. 日本地震工学会大会規程（案）

若松副会長から資料拡正副会議-資料 7 を用いて、日本地震工学会大会規程（案）が示された。表現等をいくつか修正し、次回理事会に諮ることになった。

8. 平成 24 年度第 3 回社員総会議案について

澤本理事から資料拡正副会議-資料 8 を用いて、第 3 回社員総会の議案が提案された。協議の結果、次の点が決定した。

総会の全体構成は、以下とする。

- ①講演会（1 件とし、講演時間は 30 分とする）
- ②功績賞、功労賞贈呈式
- ③スペシャルアドバイザー委嘱式

④論文賞及び論文奨励賞の贈呈式

⑤論文賞及び論文奨励賞受賞者の記念講演

⑥社員総会

- ・ 論文賞と論文奨励賞の贈呈式と記念講演は、あわせて 50 分の時間を確保する。
- ・ 日本地震工学会の提言については、社員総会の中で会長挨拶の次に報告する。
- ・ 名誉会員推挙式は社員総会の中で行う。

9. 16WCEE 日本招致に関して

川島会長から資料拡正副会議-資料 9 を用いて、16WCEE の日本招致に関する国内の主要な関係者からの意見とコンベンション会社の見積が報告された。

記録担当：総務理事 矢部正明

議事録承認

平成 24 年 4 月 16 日

会長 川島 一彦

平成 24 年 4 月 16 日

総務担当理事 矢部 正明